

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年8月22日

【評価実施概要】

事業所番号	0771100179		
法人名	有限会社 タムラ		
事業所名	グループホーム はこべ		
所在地	〒963-4602 福島県田村市常葉町常葉字七日市場99番地 (電話) 0247-77-3001		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなビル302号室		
訪問調査日	平成19年7月23日	評価確定日	平成19年9月13日

【情報提供票より】 (19年 6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	7 人, 非常勤 8人, 常勤換算 7.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,500 円	その他の経費(月額)	4~11月 13,000円 12~3月 14,500円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(30,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	500 円	おやつ 150 円
	1日	1,200 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.4 歳	最低	70 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 明孝会、青山医院、医療法人 村越歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな地域にある平屋建て2ユニットのホームである。ホームの前には自家栽培の野菜で食事がまかなえるほどの広い畑があり、利用者と職員、それに近所の方々が共に野菜づくりを楽しんでいる。また、敷地が広くホームの周りには利用者の散歩コースとなっており、恵まれた生活環境である。現在、同じ敷地内にショートステイ単独型20床の事業所を建築中であり、地域住民から期待されている。ホームは開設後約2年経過し、常勤職員全員が開設時からのメンバーで、所長及び管理者を軸にチームワークが良く、利用者の表情がとても明るくなごやかに生活を楽しんでいる。今年度からは特に地域密着型サービスということで積極的に地域との交流(文化祭・商工祭・敬老会・幼稚園の運動会等)の機会を設け、実践している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の意義については全職員が理解しており、前回初めての評価結果を真摯に受け止め全員で話し合い、具体的改善に向けて取り組んできた。特に介護計画については、ケアマネジャーを中心に様式を一新し、介護計画の見直しやサービス内容の変更等に取り組んできた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は介護サービスの質の向上の基本であるとの認識から、全職員が改善すべき事項について確認しながら具体的な改善策を検討し、自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議はまだ2回のみで開催であるが、今年度からは計画的に開催することにし、6月22日に今年度第1回を開催した。会議には地域の区長、老人会長、民生委員、警察署、消防署、行政、児童生活センター、農業委員等あらゆる分野の方に呼びかけ、参加者がとても協力的であるので、今後定期的に開催し地域に開かれたサービスを目指して地域との交流にさらに努めることを望む。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	「はこべ通信」を発行し、ホームの行事や日頃の暮らしごとともに、身体の状況等を家族に知らせており、行事には家族にも参加を呼びかけ、開催後には家族との意見交換会を行っている。また、家族の意見や意向は些細なことも収集できるような体制となっており、具体的な改善につながるよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事や地域活動には積極的に参加し、交流している。地域の幼稚園や障害者の運動会にも参加している。また、ホームのはこべ祭には地域住民に呼びかけ、模擬店の出店や豚汁を提供し、共に楽しんでいる。地域に根ざした活動に意欲的に取り組んでいる。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの重要性を認識し、今回全職員で理念の見直しに取り組み、地域社会とのつながりを重視することを盛り込んだ理念をつくりあげた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の職員間の共有は、ミーティングや職場内研修時で常に話し合いをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事（文化祭・運動会・秋祭り等）には積極的に参加し、地域とのふれあいを大切にしている。はこべ祭ではチラシを利用者と職員が一緒に地域に配布し、多数の住民の参加を得ている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を全職員で検討し、ほぼ改善されている。今後も自己・外部評価を活かした取り組みが期待できる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の必要性は理解されているが、昨年度は定期的な開催には至っていなかった。委員の理解が得られているので、今年度からは計画的に開催し、サービスの質の向上に努められることを望む。	○	年間計画に開催時期・協議問題等を決め、事前に推進委員に配布し、短時間でも濃密な懇談ができるよう配慮することが望まれる。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書送付の折に金銭管理の明細書や利用者の生活状況や受診結果等を知らせている。また、「はこべ通信」で行事の実施状況等も知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時やあらゆる機会を利用し、家族等から意見の収集を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤職員の異動はしていない。現在は職員全員が利用者と良好な関係を保っている。利用者に対して担当職員を決めているので、退職等やむを得ない異動の場合には利用者の動揺を最小限にする体制をとっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に計画的に参加させ、その報告はミーティングの場で職員全員に周知している。また、資格取得のための研修会の希望者に対して参加の支援体制をとっている。各研修会の開催情報を全職員に周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの職員と交流し、同業者同士の情報交換をしている。また、介護サービス事業所と連携を密にし情報交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	農作業や季節の食べ物の調理法など利用者の得意なことを教えてもらい、協働している。また、利用者と一緒に買い物に行ったり、利用者と職員が自然体で日常の生活をしている。		

外部 評価 価	自己 評価 価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネジャーの指導のもと、全職員が利用者との会話の中で言葉・表情・態度でしたいこと等をくみ取り、ケアプランに取り入れ、支援している。また、3ヶ月に1度家族を含めたアセスメントを実施している。		
家族を含めたアセスメントを実施している。					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向の共有化に努め、介護計画に反映させ日々の介護にあたっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとのケース会議での介護計画の見直しや1ヶ月毎のモニタリング等で、常に現状に即した計画を作成している。ケース会議には事前に各担当者が家族の意向を聞き反映させている。その結果は家族に知らせている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師との連携が密になされている。往診、受診、緊急時の対応もスムーズである。緊急時には家族と相談して受診し、受診結果は家族に報告し、情報の共有を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	設立時より、終末期のあり方について検討してきた。所長と管理者を軸に職員間で終末期の方針の共有を図り、早期(入居時)から家族や関係者と話し合い、重度化に伴う意思の確認(同意書)を得て支援している。更に重度化が進んだ場合にはその都度意思を把握し、同意書を新たに作成することになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はあたたかく見守りながら、利用者のプライバシーには十分配慮し、プライドを損ねないような声かけやケアを実施している。個人情報の取り扱いは十分注意し、書類等は保管庫で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその日課はあるが、利用者の体調・気持ちを尊重し、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員全員が利用者と一緒に食事を楽しんでおり、さりげなく介助している。利用者の好みや嗜好を把握しており、きざみや味付けに工夫している。自分たちで収穫した野菜を使い季節感のあるメニューを心掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調・気持ちを尊重し、安心して入浴できるように努め、家庭での習慣をできるだけ継続するようにしている。拒否者には曜日を変更し対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	ホームでの役割が自然にでき、仏壇のお茶の上げ下げや野菜の収穫等、利用者が行っている。また、利用者の趣味等を把握し支援しており、裁縫が得意な利用者が浴衣を縫っていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	天気の良い日には利用者の状況に応じて買い物、散歩をしている。ホームの敷地内での散歩は日課となっており、自由に散策している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。外出したい利用者にはさりげなくついていき、対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は消防署と連携して実施している。避難訓練は利用者、職員全員で実施している。また、災害時の備蓄(水、食料品等)もされている。今後火災訓練や避難訓練を行う際に地域住民にも声をかけ、参加してもらうよう働きかけていくことが望ましい。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの毎日の栄養摂取量や水分摂取を記録し、更に定期的な体重測定により、状態の変化等に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、テーブル等が機能的に配置され、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。共用空間には天窓があり、換気できるようになっており、気になるにおいや音、空気のよどみは感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自が好みの物(テレビ・椅子・写真・筆筒等)を持ち込み、個性的な居室になっている。夫婦で入居している方もおり、趣味を自室で自由に楽しんでいる。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム はこべ

記入担当者名 熊田 裕子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。